

科目名	REL210: キリスト教文化入門				担当教員	丹木 博一 (輪講)	
開講期	秋	開講時限	火金4限	研究室	4214	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	聖書、イエス・キリスト、信仰、愛、倫理、文化、芸術、宗教間対話						
授業の概要	複数講師による輪講形式で、キリスト教文化の諸相について講義する。イエスは何を語り何を行ったのか、クリスチャンが信じているのはどのようなことかを明らかにし、キリスト教の歴史を踏まえながら、全世界に多大な影響を及ぼすキリスト教文化を多面的に考察する。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>キリスト教とはどんな宗教であるかを正しく理解し、表現できる。また、キリスト教文化全般について幅広い関心を持ち、自ら考察を進めることができるようになる。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義を通してキリスト教の信仰内容とその歴史を理解し、キリスト教文化の諸相について自分自身の関心と問題意識を論述できる。 ・キリスト教文化の諸相を理解し、キリスト教とはいかなる宗教であるかについて問題提起ができる。 ・キリスト教文化に関し自らの選んだテーマについて研究成果をまとめ、分かりやすく発表することができる。 						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>授業毎のリアクションペーパー (30%)、研究発表 (20%)、期末レポート (2,500 字以上) (50%)</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>リアクションペーパー：講義内容について問題意識を持って論述展開できるかどうか。 研究発表：キリスト教に関する自由研究の成果を分かりやすく発表できるかどうか。 期末レポート：最低一冊参考文献を読み、関心を寄せるテーマについて問いを提起し、先行研究を踏まえつつ理由を挙げて自分の考えを自分の言葉で論じうるかどうか。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	ガイダンス：講義内容と課題の説明 宗教とは何か	講義・リアクションペーパー	自分の宗教観を整理しておくこと。配布資料の復習
2	キリスト教の基本的特徴	講義・リアクションペーパー	テキスト 12-29 頁の予習 配布資料の復習
3	イエスの生涯	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	マルコ福音書の通読・テキスト 82-89 頁の予習
4	旧約聖書 (1) モーセ五書と歴史書	講義・リアクションペーパー	テキスト 30-48 頁の予習 配布資料の復習
5	旧約聖書 (2) 知恵文学と預言書	講義・リアクションペーパー	テキスト 48-61 頁の予習 配布資料の復習
6	新約聖書 (1) 福音書	講義・リアクションペーパー	テキスト 62-86 頁の予習 配布資料の復習
7	新約聖書 (2) パウロの書簡	講義・リアクションペーパー	テキスト 86-105 頁の予習 配布資料の復習
8	キリスト教の歴史 その1 古代から中世まで	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	テキスト 106-117 頁の予習 配布資料の復習
9	キリスト教の歴史 その2 宗教改革から現代まで	講義・リアクションペーパー	テキスト 118-121 頁の予習 配布資料の復習
10	フランシスコ・ザビエルと上智大学	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	テキスト 122-123 頁の予習 配布資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	ミサ典礼	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	配布資料の復習
12	イエズス会の教育とイグナチオの霊性	講義・リアクションペーパー	配布資料の復習
13	修道院文化	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	テキスト 126-129 頁の予習 配布資料の復習
14	キリスト教音楽 (1)	講義・音楽鑑賞・リアクションペーパー	配布資料の復習
15	暦・シンボル・伝説	講義・リアクションペーパー	テキスト 150-155 頁の予習 配布資料の復習
16	キリスト教音楽 (2)	講義・音楽鑑賞・リアクションペーパー	配布資料の復習
17	キリスト教倫理 その1 差別と戦争への問い	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	テキスト 116-117 頁の予習 配布資料の復習
18	キリスト教倫理 その2 平和への願いと愛の教え	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	テキスト 138-149 頁の予習 配布資料の復習
19	キリスト教美術 その1 神を描くことをめぐる問題	講義・美術鑑賞・リアクションペーパー	テキスト 114-115 頁の予習 配布資料の復習
20	キリスト教美術 その2 東方正教会とイコン	講義・美術鑑賞・リアクションペーパー	テキスト 130-131 頁の予習 配布資料の復習
21	時代の必要に応えた人びと (1) アシジの聖フランシスコ	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	配布資料の復習
22	時代の必要に応えた人びと (2) マザー・テレサ	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	配布資料の復習
23	キリスト教と仏教 その1 自己の探求	講義・リアクションペーパー	配布資料の復習
24	キリスト教と仏教 その2 生きる意味への問い	講義・リアクションペーパー	配布資料の復習
25	キリスト教と哲学 その1 信仰と理性	講義・リアクションペーパー	配布資料の復習
26	キリスト教と哲学 その2 啓示と救い	講義・リアクションペーパー	配布資料の復習
27	研究発表 (1) 学生	講義・リアクションペーパー	研究発表の準備
28	研究発表 (2) 学生	講義・リアクションペーパー	研究発表の準備
29	研究発表 (3) 学生	講義・リアクションペーパー	研究発表の準備
30	研究発表 (4) 学生	講義・リアクションペーパー	研究発表の準備 期末レポート提出

テキスト	土井かおる『よくわかるキリスト教』(PHP 研究所) その他に、各講師が資料を配布する。
参考書	各講師が毎回指示する。
その他 特記事項	授業には主体的な関心をもって参加して欲しい。なお講師の都合により、授業内容及び順序に変更が生じる可能性がある。

科目名	IDS210: 異文化間コミュニケーション				担当教員	C. Oliver	
開講期	春	開講時限	月木3限	研究室	4205	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	intercultural communication, linguistics, social psychology, anthropology, critical thinking						
授業の概要	This course provides an introduction to intercultural communication as an area of study. Readings and lectures will cover basic definitions, concepts, and issues related to intercultural communication. As regular homework, students will keep a record of their own intercultural communication experiences. We will also carry out one lengthy intercultural simulation in class. Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.						
達成目標 および 到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>Students will learn to understand “intercultural communication” (ICC) using concepts coming from linguistics, social psychology, and anthropology; to describe and analyze their own experiences of ICC; and to think critically about ICC as a problem in modern societies.</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <p>By the end of the semester, students will be able to understand key concepts related to ICC drawn from linguistics, social psychology, and anthropology and how they apply to specific examples; factually describe their own recent experiences of ICC and relate those experiences to concepts discussed in class; and explain, in writing, ways in which specific situations of ICC found in the world today are related to broader social and historical contexts and issues.</p>						
評価方法 および 評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>Participation 20%, Homework 40%, Tests 40%.</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> • Participation: active participation in everyday class activities, including lectures and discussions; responses in in-class writing activities that demonstrate engagement with class content; • Homework: submitted on time, thoroughly completed, provides factual description where required, demonstrates appropriate application of concepts covered in class; • Tests: demonstrate ability to understand key concepts related to ICC and how they apply to specific examples, demonstrate ability to explain ways that specific situations of intercultural communication are related to broader social and historical contexts and issues. 						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Course overview	Lecture	Read course syllabus thoroughly
2	Defining intercultural communication	Lecture, pair work	Read p. 34, review syllabus
3	“Culture” in intercultural communication	Lecture, pair work	Read pp. 9-10, 12-13; skim pp. 13-27
4	Features of human communication: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71
5	Features of human communication: meaning and context	Lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71
6	Communication and language: language and thought	Lecture, pair work	Read pp. 77-79, 83
7	Communication and language: aspects of meaning	Lecture, pair work	Submit: “ICC Experience” homework
8	Non-verbal communication: silence	Lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9
9	Non-verbal communication: functions	Lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	Edward T. Hall: the first interculturalist	Lecture, pair work	Read pp. 49-50, 56, 96, 133; Submit: "ICC Exper." HW
11	Stereotypes: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 152-153
12	Stereotypes: aspects and effects	Lecture, pair work	Read pp. 152-153
13	Values: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 16-19, 42-49
14	Values: kinds of values	Lecture, pair work	Submit: "ICC Experience" HW, "Values" HW
15	Culture shock: definition, symptoms, varieties	Lecture, pair work	Read pp. 158-165
16	Communication "events": basic concepts	Lecture, pair work	Submit: "culture shock" homework
17	Communication "events": dimensions of norms	Lecture, pair work	Review lecture notes
18	Intercultural training: basic elements	Lecture, pair work	Read pp. 186-187; Submit: "ICC Experience" homework
19	Intercultural training: intercultural simulations	Pair work, lecture	Read Ch. 16, especially pp. 186-187
20	Review; Test #1	Lecture, written exam	Study for test
21	Intercultural simulation: do in class	Small-group discussion	Read handouts about simulation
22	Intercultural simulation: follow-up discussion	Small-group discussion, lecture	Submit: "ICC Experience" homework
23	Social and historical contexts of intercultural communication: Quebec	Lecture, pair work	Review class notes
24	Social and historical contexts of intercultural communication: U.S. South	Lecture, pair work	Review class notes
25	Social and historical contexts of intercultural communication: American Indians	Lecture, pair work	Review class notes
26	Power and inequality in intercultural communication	Lecture, pair work	Submit: "ICC Experience" homework
27	Review of Test #1; Practical implications for the study of intercultural communication	Lecture, pair work	Review class notes
28	Review for Test #2; Paths toward better knowledge and understanding of others	Lecture, pair work	Review textbook pages covered, handouts, class notes
29	Review, Test #2	Lecture, written exam	Study for test
30	Semester recap	Lecture, small-group discussion	Submit: "ICC Experience" homework

テキスト	Hidasi Judit. <i>Intercultural Communication: An Outline</i> (三元社).
参考書	石井 敏、久米 昭元、長谷川 典子、桜木 俊行&石黒 武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』(有斐閣)
その他 特記事項	Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.

科目名	LIT201: 英文学概論				担当教員	飯田 純也	
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4216	オフィスワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	物語、聖書、映画、物語、モラル、パラブル、歴史、社会、抑圧、貧困、暴力、女性						
授業の概要	文学の裾野を広げ、広義の物語を通して人間と社会の関係性を研究する。物語の意義は問題提起にある。提起される問題は複数の学問領域に横断的に関わる。授業では、英語圏を代表する小説を取り上げ、現代とのかかわりで、物語が描く人間と社会を批判的に分析する。準備学習として、事前の指定 DVD 資料の視聴が求められる。小論文と期末レポートを書くためには、準備学習と授業を通してまとめられたノートが重要になる。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>物語論の視点から、文学研究の意義と方法を学び、文学研究を通じて英語文化圏の歴史や社会を理解し、同時に文化を超越する精神的価値を理解することである。さらに、毎回のパワーポイント資料（英語）等を基に、自らの意見を資料と照らし合わせながら、小論文にまとめる能力を身につけることである。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語文化圏を代表する作品を理解することができる 作品理解を通して、英語文化圏の歴史と社会問題を理解することができる 同時に、英語文化圏に限定されない人間性、精神性を理解することができる 物語論を学び、他の人文科学及び社会科学の研究に応用することができる 						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>1. 小論文は9回の内8回提出で計40%、2. 期末レポートは30%、3. 授業参加状況が30%。</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>詳細は初回授業時に説明する。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	授業紹介	講義、質疑応答、ペアワーク	課題 DVD のリストを基に入手先を検討する
2	物語論：エンディングは問題提起 (1) <i>Citizen Kane</i> (1941 movie)	講義、質疑応答	課題 DVD を視聴、筋と要点をノート
3	物語論：エンディングは問題提起 (2) <i>Black Orpheus</i> (1959 movie)	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD を視聴、筋と要点をノート
4	物語論：エンディングは問題提起 (3) <i>A Man and a Woman</i> (1966 movie)	講義、質疑応答、グループ討論	小論文 no. 1 の準備 (提出は次回授業時)
5	文学はパラブル (1) 聖書と譬え話	講義、質疑応答	課題資料 (英文) の下調べ、筋と要点をノート
6	文学はパラブル (2) アブサローム物語	講義、質疑応答、グループ討論	小論文 no. 2 の準備 (提出は次回授業時)
7	パラブルと女性 (1) <i>Romeo and Juliet</i>	講義、質疑応答	課題 DVD を視聴、筋と要点をノート
8	パラブルと女性 (2) <i>Tristan and Isolde</i>	講義、質疑応答、グループ討論	小論文 no. 3 の準備 (提出は次回授業時)
9	作品研究 <i>Jane Eyre</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD を視聴、筋と要点をノート
10	作品研究 <i>Jane Eyre</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 4 の準備 (提出は次回授業時)
11	作品研究 <i>A Passage to India</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD を視聴、筋と要点をノート

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
12	作品研究 <i>A Passage to India</i> (2) 討論	質疑応答、 グループ討論	小論文 no. 5 の準備（提出は次回授業時）
13	作品研究 <i>Vanity Fair</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD を視聴、 筋と要点をノート
14	作品研究 <i>Vanity Fair</i> (2) 討論	質疑応答、 グループ討論	小論文 no. 6 の準備（提出は次回授業時）
15	作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD を視聴、 筋と要点をノート
16	作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> (2) 討論	質疑応答、 グループ討論	小論文 no. 7 の準備（提出は次回授業時）
17	作家研究 Charles Dickens: <i>David Copperfield</i>	講義、質疑応答	課題 DVD を視聴、 筋と要点をノート
18	作家研究 Charles Dickens: <i>Nicholas Nickleby</i>	講義、質疑応答、 グループ討論	課題 DVD を視聴、 筋と要点をノート
19	作家研究 Charles Dickens: <i>Oliver Twist</i>	講義、質疑応答、 グループ討論	小論文 no. 8 の準備（提出は次回授業時）
20	作家研究 Jane Austen: <i>Sense and Sensibility</i>	講義、質疑応答	課題 DVD を視聴、 筋と要点をノート
21	作家研究 Jane Austen: <i>Pride and Prejudice</i>	講義、質疑応答、 グループ討論	課題 DVD を視聴、 筋と要点をノート
22	作家研究 Jane Austen: <i>Mansfield Park</i>	講義、質疑応答、 グループ討論	小論文 no. 9 の準備（提出は次回授業時）
23	アメリカ社会研究 (1) <i>The Scarlet Letter</i> のピューリタン社会	講義、質疑応答	課題資料の下調べ、 筋と要点をノート
24	アメリカ社会研究 (2) <i>The Scarlet Letter</i> とインディアン戦争	講義、質疑応答、 グループ討論	ノートの整理、グループ討論の準備
25	アメリカ社会研究 (3) <i>The Great Gatsby</i> と資本主義社会	講義、質疑応答	課題資料の下調べ、 筋と要点をノート
26	アメリカ社会研究 (4) 総論	講義、質疑応答、 グループ討論	ノートの整理、グループ討論の準備
27	授業のふりかえり 講義と討論	グループワークで相互発表、相互評価	期末レポートの準備 作品、テーマの決定
28	期末レポート作成指導 講義と討論	グループワークで相互発表、相互評価	発表と期末レポートの準備
29	発表と期末レポート作成準備	ボランティア学生の発表、講評	発表の準備と期末レポートの提出
30	発表と期末レポート講評	ボランティア学生の発表、講評	発表の準備

テキスト	作品の抜粋等の資料を随時配布する
参考書	Herman, David, ed. <i>The Cambridge Companion to Narrative</i> (Cambridge University Press, 2007).
その他 特記事項	この授業では世界史の知識が前提となるので、特に 18 世紀以降の英国を中心とする歴史を復習してほしい。

科目名	LIT201: 英文学概論					担当教員	平野 幸治
開講期	秋	開講時限	火金3限	研究室	4210	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	bildungsroman (教養小説), parable & narrative (寓話と物語), social issues (社会問題)						
授業の概要	英文学をはじめは「ジャンル」を切り口に詩、劇、小説を取り上げ、次に「個人と社会」という視点を切り口にして作品の中の伝統、文化、風俗、歴史の意味や影響を考察する。作品のプロット・サマリーを英語で読み日本語で要約、指示された DVD を見てメモを取る。グループでディスカッションや成果の発表を行う。教員の一方通行の講義ではない授業を展開する。発問の仕方、研究の方法論と知識を日常的に検証する。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>この授業では、英語で書かれたプロット・サマリーを毎回配布し、学生が英文学研究に必要な用語・概念を理解し、具体的な作品を通して英米文学の歴史を把握し、英文学の特徴を述べる事が出来るようになること、文学作品のテーマや社会問題、比喩を理解して討論し、自分の意見を人前で述べ、論文が書けるようになることを目指す。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <p>学期末には学生は、①グループディスカッションにおいて他者の意見を聞いて適切に質問や意見を述べる事が出来るようになる。②1,500 字程度の文章が書け、発表できるようになる。③十分な具体例や作品からの引用を用いて、研究する上での倫理を踏まえた 8,000 字程度の日本語の論文が書けるようになる。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>①授業内のグループディスカッションの報告専用フォームの提出 12 回 (フォーム提出 2%×12 回=24%) ②授業内で個人の課題提出 (1,500 字程度) と発表 6 回 (課題+発表 6%×6 回=36%) ③研究する上での倫理を踏まえた最終課題 (8,000 字) の提出 (10%) ④毎授業の終了時に回収する Shuttle Card に授業に関する質問や意見を適切な日本語で述べる (1%×30 回=30%)</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>評価基準は授業の初回に詳しく説明します。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	イントロダクション：英文学概論の目的と授業の進め方	講義、DVD の視聴用リストの配布	次回プリントの下調べと DVD 視聴メモ作成
2	【文学ジャンルと物語論】小説とは？	講義と作品理解のための相関図の説明	次回プリントの下調べと DVD 視聴メモ作成
3	【文学ジャンルと物語論】詩とは？音声と意味 (1)	講義と①-1 グループディスカッション	次回プリントの下調べと DVD 視聴メモ作成
4	【文学ジャンルと物語論】詩とは？ (2) 論文作成における注意点：plagiarism	ディスカッションの結果を踏まえた講義	次回プリントの下調べと DVD 視聴メモ作成
5	【文学ジャンルと物語論】物語：一人称の語りと三人称の語り	講義と作品理解のための視点の説明	次回プリントの下調べと DVD 視聴メモ作成
6	【パラブル <i>Romeo and Juliet</i> 】寓話・譬え話の持つ意味とは？ (1)	講義と①-2 グループディスカッション	次回の下調べと②-1 個人の課題の作成と提出
7	【パラブル <i>Romeo and Juliet</i> 】寓話・譬え話の語りとは？ (2)	②-1 個人の課題の発表と講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
8	【パラブル <i>Tristan and Isolde</i> 】神話と文学の関係とは？ (1)	講義と①-3 グループディスカッション	次回プリントの下調べと DVD 視聴メモ作成
9	【パラブル <i>Tristan and Isolde</i> 】神話と文学の語りとは？ (2)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	人的相関図とプロットの展開図の作成

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	【作品研究 <i>Jane Eyre</i> 】 (1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-4 グループ ディスカッション	人的相関図の作成と②-2 個人 の課題の作成と提出
11	【作品研究 <i>Jane Eyre</i> 】 (2) 女性の自立と imprisonment (監禁)	②-2 個人の課題の発表 と講義	DVD 視聴メモの作成と次回 プリントの下調べ
12	【作品研究 <i>Vanity Fair</i> 】 (1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-5 グループ ディスカッション	人的相関図とプロットの展開 図の作成
13	【作品研究 <i>Vanity Fair</i> 】 (2) 女性の自立と governess (女家庭教師)	ディスカッションの結果を踏 まえた講義	次回の下調べと②-3 個人の 課題の作成と提出
14	【作品研究 <i>Sense & Sensibility</i> 】 (1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	②-3 個人の課題の発表 と講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
15	【作品研究 <i>Sense & Sensibility</i> 】 (2) 婚姻と the class system (階級制度)	講義と①-6 グループ ディスカッション	DVD 視聴メモの作成と次回 プリントの下調べ
16	【作品研究 <i>David Copperfield</i> 】 (1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-7 グループ ディスカッション	人的相関図とプロットの展開 図の作成
17	【作品研究 <i>David Copperfield</i> 】 (2) 婚姻と child labour (児童労働)	ディスカッションの結果を踏 まえた講義	次回の下調べと②-4 個人の 課題の作成と提出
18	【作品研究 <i>Wuthering Heights</i> 】 (1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-8 グループ ディスカッション	人的相関図とプロットの展開 図の作成
19	【作品研究 <i>Wuthering Heights</i> 】 (2) 個人と社会	②-4 個人の課題の発表 と講義	DVD 視聴メモの作成と次回 プリントの下調べ
20	【作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> 】 (1) 婚姻と hypocrisy (偽善性)	講義と①-9 グループ ディスカッション	人的相関図とプロットの展開 図の作成
21	【作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> 】 (2) 個人と社会	ディスカッションの結果を踏 まえた講義	DVD 視聴メモの作成と次回 プリントの下調べ
22	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】 (1) 帝国と 20 世紀の文学	講義と①-10 グループ ディスカッション	次回の下調べと②-5 個人の 課題の作成と提出
23	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】 (2) 宗主国と植民地	②-5 個人の課題の発表 と講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
24	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】 (3) 異文化理解と文化的衝突	講義と DVD の視聴、 プロットの説明	DVD 視聴メモの作成と次回 プリントの下調べ
25	【作品研究 <i>Great Gatsby</i> 】 (1) アメリカ文学と 20 世紀	講義と①-11 グループ ディスカッション	人的相関図とプロットの展開 図の作成
26	【作品研究 <i>Great Gatsby</i> 】 (2) 現実と American dream (アメリカの夢)	ディスカッションの結果を踏 まえた講義	次回の下調べと②-6 個人の 課題の作成と提出
27	【作品研究 <i>The Age of Innocence</i> 】 モラルの対比と Brave New World (新世界)	②-6 個人の課題の発表 と講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
28	【作品研究 <i>The Remains of the Day</i> 】 (1) 20 世紀と 21 世紀の英文学	講義と①-12 グループ ディスカッション	人的相関図とプロットの展開 図の作成
29	【作品研究 <i>The Remains of the Day</i> 】 (2) 個人 と社会	ディスカッションの結果を踏 まえた講義	③最終課題の作成と提出
30	21 世紀の英文学の行方と文学研究の意義 と個人課題の返却	講義と個人課題の返 却と講評	ノートおよびグループディ スカッションの整理

テキスト	なし、Sparknotes.com 等の plot summary を用いたプリントを配布
参考書	David Lodge, <i>The Art of Fiction</i> (Penguin Books), 都甲幸治『21 世紀の世界文学 30 冊を読む』(新潮社)、阿部公彦『小説的思考のススメ』(東京大学出版会)
その他 特記事項	授業初回時に配布する DVD のリストに従い、準備学修・復習として指示された DVD を 図書館等でメモを取りながら各自で見ること。

科目名	LNG200: 言語学概論				担当教員	神谷 雅仁	
開講期	春	開講時限	月木3限	研究室	4215	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	言語とは、英語史、音素、語形成、生成文法、文／発話の意味、言語のバリエーション						
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストと担当者の準備した資料(様々な練習問題を含む)をもとに講義形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関するレビューを行う。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>本講を通じて学生は、対象言語となっている英語の音声・音韻の体系、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語構造、および歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論に触れ、その理解を深めることを目標とする。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <p>学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系／構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活(母語と外国語)に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト 1 (35%)、理解度テスト 2 (35%)、Book Report (20%)、授業参加度／提出物 (10%) <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト 1: 学期前半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 理解度テスト 2: 学期後半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 Book Report: Booklist にある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約(章や節ごとに内容をまとめる)と自分の見解(何を学べたか、どのような発見があったか、どんな課題が見つかったかなど)を含めたブックレポートを作成する。 授業参加度／提出物: 授業内での発言・質問(レビュー時)や提出物の成果 						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	Course overview 本講を概観する	講義、ディスカッション	テキスト全体に目を通す
2	What is Language? 人間にとって言語とは何か?	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	テキスト (ch. 1-2)、レジュメの予習・復習
3	What is Language? 言語の定義	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	Reaction paper 作成、レジュメの予習・復習
4	What is Language? 言語の特性	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 1-2)、レジュメの予習・復習
5	What is Linguistics? 言語学という分野	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 1-2)、レジュメの予習・復習
6	History of English 英語の歴史(古英語)	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 3-5)、レジュメの予習・復習
7	History of English 英語の歴史(中英語)	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 3-5)、レジュメの予習・復習
8	History of English 英語の歴史(近代英語)	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 3-5)、レジュメの予習・復習
9	Phonetics 音声学	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 8-9)、レジュメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	Phonetics & Phonology 音声学&音韻論	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
11	Phonology 音韻論	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
12	Morphology 形態論 形態素とは？	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 10)、レジユメの予習・復習
13	Morphology 形態論 語形成	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 10)、レジユメの予習・復習
14	Syntax 1 統語論 1 伝統文法、アメリカ構造主義言語学	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
15	Syntax 1 統語論 アメリカ構造主義言語学 Review of the first half 前半のまとめ	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
16	Review of the first half 前半のまとめ 理解度テスト 1	講義、質疑応答 テスト	前半の学習内容の復習 テスト準備
17	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：文法観	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
18	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：句構造規則	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
19	Semantics 意味論 語の意味	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 13-16)、レジユメの予習・復習
20	Semantics 意味論 句・文の意味	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 13-16)、レジユメの予習・復習
21	Pragmatics 語用論 語用論とは：基本概念	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 17-20)、レジユメの予習・復習
22	Pragmatics 語用論 発話行為、会話の含意	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
23	Communication and culture 文化と文脈	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
24	Communication and culture 文化とコミュニケーション	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
25	Sociolinguistics 社会言語学 言語のバリエーション	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 6 & 23-24)、レジユメの予習・復習
26	Sociolinguistics 社会言語学 言語政策	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 6 & 23-24)、レジユメの予習・復習
27	Second Language Acquisition 第二言語習得 外国語教授法	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 25)、レジユメの予習・復習
28	Second Language Acquisition 第二言語習得 様々な関連理論 Book Report 提出	講義、ディスカッション	テキスト (ch. 25)、レジユメの予習・復習、Book Report 準備
29	Review of the second half 後半のまとめ 理解度テスト 2	講義、質疑応答 テスト	後半の学習内容の復習 テスト準備
30	Review of the test 理解度テスト 2 の見直し Course review 全体のまとめ	講義、質疑応答	テストの見直し

テキスト	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学』（研究社）
参考書	石黒 昭博ほか（編著）『現代の英語学』（金星堂） 飯野公一ほか（著）『新世代の言語学—社会・文化・人をつなぐもの』（くろしお出版）
その他 特記事項	この科目は言語研究コースを修了するための必修科目である。また、言語系のゼミ受講への基礎知識を与えるものである。

科目名	LNG200: 言語学概論				担当教員	柳田 恵美子	
開講期	秋	開講時限	火金 4 限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、応用言語学						
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストと担当者の準備した資料(様々な練習問題を含む)をもとに講義形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関するレビューを行う。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>本講を通じて学生は英語を対象言語にし、音声、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語の構造、および英語の歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論に触れ、その理解を深めることを目標とする。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <p>学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系／構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活(母語と外国語)に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても、内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々、言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト 1 (35%)、理解度テスト 2 (35%)、Book Report (20%)、授業参加度／提出物 (10%) <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト 1：学期前半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 理解度テスト 2：学期後半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 Book Report：Booklist にある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約と自分の見解(例：どのような発見があったか)を含めたブックレポートを作成する。 授業参加度／提出物：授業内での発言・質問(レビュー時)や提出物の成果 						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	本講を概観する	講義・ディスカッション	テキスト第 2 章を読む プリント
2	言語とは	講義・ディスカッション	テキスト第 1-2 章を読む プリント
3	英語の歴史—英語の始まりと発展	講義・ディスカッション	テキスト第 3-7 章を読む プリント
4	英語の歴史—英語の広がり	講義・ディスカッション	テキスト第 3-7 章を読む プリント
5	音声学・音韻論 [子音]	講義・ディスカッション	テキスト第 8-9 章を読む プリント
6	音声学・音韻論 [母音]	講義・ディスカッション	テキスト第 8-9 章を読む プリント
7	音声学・音韻論 [音素]	講義・ディスカッション	テキスト第 8-9 章を読む プリント
8	音声学・音韻論 [音韻的特徴]	講義・ディスカッション	テキスト第 8-9 章を読む プリント

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
9	形態論 [語構造]	講義・ディスカッション	テキスト第 10 章を読む プリント
10	形態論 [語構造・語形成]	講義・ディスカッション	テキスト第 10 章を読む プリント
11	形態論 [語形成]	講義・ディスカッション	テキスト第 10 章を読む プリント
12	統語論 [統語論とは何か]	講義・ディスカッション	テキスト第 11-12 章を読む プリント
13	統語論 [句構造]	講義・ディスカッション	テキスト第 11-12 章を読む プリント
14	前半のまとめ	講義・ディスカッション	第 1 回目から 13 回目までの 内容を復習する
15	前半のまとめ 理解度テスト 1	講義・試験	テストの準備
16	統語論 [句構造・文構造]	講義・ディスカッション	テキスト第 11-12 章を読む プリント
17	統語論 [文構造]	講義・ディスカッション	テキスト第 11-12 章を読む プリント
18	意味論 [語の意味]	講義・ディスカッション	テキスト第 13-16 章を読む プリント
19	意味論 [文の意味]	講義・ディスカッション	テキスト第 13-16 章を読む プリント
20	語用論 [談話の構造]	講義・ディスカッション	テキスト第 17-20 章を読む プリント
21	語用論 [談話の構造・意味]	講義・ディスカッション	テキスト第 17-20 章を読む プリント
22	語用論 [談話の意味]	講義・ディスカッション	テキスト第 17-20 章を読む プリント
23	ことばと文化・コミュニケーション論	講義・ディスカッション	テキスト第 21-22 章を読む プリント
24	社会言語学 [言語と地域]	講義・ディスカッション	テキスト第 23-24 章を読む プリント
25	社会言語学 [言語と社会]	講義・ディスカッション	テキスト第 23-24 章を読む プリント
26	応用言語学 [コミュニケーション能力]	講義・ディスカッション	テキスト第 25 章を読む プリント
27	応用言語学 [言語習得] ブックレポートの提出	講義・ディスカッション	テキスト第 25 章を読む プリント
28	応用言語学 [言語教育]	講義・ディスカッション	テキスト第 25 章を読む プリント
29	後半のまとめ 理解度テスト 2	講義・試験	テストの準備
30	理解度テスト 2 の見直し 総復習	講義・質疑応答	テストの見直し 全体の復習

テキスト	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学』（研究社）
その他 特記事項	この科目は言語研究コースを修了するための必修科目である。また、言語系のゼミ受講への基礎知識を与えるものである。

科目名	EDU205: 児童英語教育概説				担当教員	狩野 晶子	
開講期	春	開講時限	月木5限	研究室	4203	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	児童英語教育、外国語習得、第二言語習得、コミュニケーション、実践						
授業の概要	児童英語教育に関心のある者に向け、児童英語とは何か、その特性と代表的な教授内容を概観する。児童英語に関連して児童心理学、言語習得論、教育学、英語教授法など多岐にわたる専門分野の内容を扱う。学生は講義とグループワーク活動、指導実践、発表を通して児童英語教育についての基礎的な知識を学び、実践活動の疑似的体験を得る。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>児童英語教育の基本的知識を学び、児童英語の英語教育における位置づけ、外国語習得および第二言語習得理論との関連から、児童期にはどのような教授法がふさわしいかを知る。児童英語の指導者としての疑似的な指導を体験し、そのために練習を積むことで、児童への効果的な指導が行える基礎力を身につける。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <p>児童英語の教授法の基礎知識を学び、それを応用したアクティビティを実践する体験を通して、指導の際の基本的な観点や基礎的な指導力を身につける。さらに学生相互の実践演習を通じて、効果的な実践発表の行い方を体験的に学び、レessonプランとして組み立て、指導の準備や練習の過程で児童英語教育に必要な表現、語彙、効果的な発音方法を知り実際の指導に生かすことができるようになる。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>①授業時に課すコメントシート (10%)、②グループによる小課題・実践発表 (30%)、③モデルレessonプラン発表 (30%)、④期末課題 (30%)。</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>①コメントシートは、授業の内容を踏まえ、自分の学びを客観視して言語化できること。②小課題・実践発表では、課題のポイントに対して的確に答えられていること。実践発表の事前準備、練習が十分になされていること。グループで協力して取り組んでいること。③モデルレessonプランは、児童の特性を踏まえた内容で、ねらい・時間配分・レベルが適切で実現可能な内容であること。発表者である学生は、そのモデル授業の重要なポイントを理解し、適格に説明できること。モデルレesson実施時に指導者として求められる要素：大きな声で分かりやすく、段取りに配慮して進められること。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	児童英語教育が目指すもの	講義、グループワーク、コメントシート	テキスト 4-8 頁 ポイントを理解する
2	従来の英語教育を概観する	講義、グループワーク、コメントシート	テキスト 11-13 頁 ポイントを理解する
3	外国語習得における年齢別特徴と教授法	講義、グループワーク、コメントシート	テキスト 14-17 頁 模擬実践の準備と練習
4	児童英語教育の基本知識	講義、グループワーク、模擬実践	テキスト 18-27 頁 ポイントを理解する
5	英語教育、第二言語習得研究におけるコミュニケーション能力	講義、グループワーク、コメントシート	テキスト 30-35 頁 ポイントを理解する
6	国際コミュニケーション能力を育てる	講義、グループワーク、コメントシート	テキスト 37-43 頁 模擬実践の準備と練習
7	理論と実践：communication activities	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 44-57 頁 模擬実践の準備と練習
8	理論と実践：information gap tasks	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 58-66 頁 模擬実践の準備と練習
9	理論と実践：nursery rhymes	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 68-84 頁 模擬実践の準備と練習

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	理論と実践：picture books	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 85-97 頁 模擬実践の準備と練習
11	理論と実践：songs	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 98-107 頁 模擬実践の準備と練習
12	理論と実践：chants	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 108-115 頁 模擬実践の準備と練習
13	理論と実践：TPR	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 116-127 頁 模擬実践の準備と練習
14	理論と実践：phonics	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 128-137 頁 模擬実践の準備と練習
15	理論と実践：creative writing	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 139-144 頁 模擬実践の準備と練習
16	理論と実践：active reading	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 145-170 頁 模擬実践の準備と練習
17	理論と実践：シラバスとカリキュラム	指導実践、学生発表、コメントシート	テキスト 171-179 頁 模擬実践の準備と練習
18	理論と実践：児童英語教育における文法・文型事項	講義、グループワーク、模擬実践	テキスト 180-187 頁 模擬実践の準備と練習
19	理論と実践：評価	講義、グループワーク、模擬実践	テキスト 188-194 頁 模擬実践の準備と練習
20	振り返り・発表準備	講義、グループワーク、コメントシート	テキスト復習及び発表準備と練習
21	発表：モデルレッシンプラン（1）・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
22	発表：モデルレッシンプラン（2）・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
23	発表：モデルレッシンプラン（3）・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
24	発表：モデルレッシンプラン（4）・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
25	発表：モデルレッシンプラン（5）・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
26	発表：モデルレッシンプラン（6）・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
27	発表：モデルレッシンプラン（7）・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
28	発表：モデルレッシンプラン（8）・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	発表の準備と練習
29	相互評価まとめ [フィードバックセッション]	相互評価、講評、コメントシート	相互フィードバックの準備
30	総評・振り返り	講義、講評、グループワーク	テキスト全体の復習

テキスト	中本幹子『実践からの児童英語教育法・解説編』（アプリコット社）
参考書	上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーションな英語教育を考える：日本の教育現場に役立つ理論と実践』（アルク）
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> この科目を履修し修了することで、児童英語教育演習 A・B の履修が可能となる。 この授業を取る者は、積極的にサービスマーケティング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶことができる本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	JPN210: 日本語教育概論				担当教員	宮崎 幸江	
開講期	秋	開講時限	木1・2限	研究室	4217	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	外国語としての日本語教授法、年少者日本語教育、バイリンガルの言語発達						
授業の概要	日本語が母語ではない人々にどうやって日本語を教えるかを学ぶ。まず、言語教育の方法について基礎となる事柄を学んだあと、具体的に初級の成人学習者にどうやって日本語を教えるかを学ぶ。さらに講義だけではなく、北米の大学で日本語を学ぶ学生と学期を通して一対一でメール交換を行ない、彼らの使用している初級教科書を使用して、レッスンプランを作成し模擬授業を複数回行う。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>本科目の目標は、多様化する日本語学習者（例：留学生や研修生、定住外国人とその家族）のニーズや第2言語の発達の違いを専門的に理解し、学習者に合った教授法とは何かを理解し実践する力を身につけることである。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <p>学期末には、初級レベルの日本語の授業計画を一人で立て、作成した教案に従って効果的な教室活動の実践ができるようになる。教室活動に必要な教材や教具についても具体的に示され適切な使用ができるようになる。さらに、学習者の日本語のレベルに合わせた言葉の使用ができるようになる。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>授業への積極参加 10%、小テスト 30%、模擬授業 30%、期末レポート 30%</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>授業への積極参加：授業での発言やグループワークへの貢献を評価する。 小テスト：既に学習した授業の内容が理解できているか。 模擬授業：授業計画、教案作成、実践のスムーズさを総合的に評価する。 期末レポート：導入する文法やアクティビティの性格をよく理解し授業計画がたてられているか、実践可能な教案を作成できるか、使用する言語は学習者のレベルに相応しいものかを評価する。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	日本語教育とは －JSLとJFL	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む (1～2頁) 小テスト準備
2	日本語学習者の多様化	小テスト、解説 講義	教科書の該当箇所を読む (1～2頁)
3	コースデザイン ニーズアナリシス	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む (4～5頁)
4	シラバスデザイン －シラバスの種類	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む (6～8頁) 小テスト準備
5	言語技能 4技能とは何か	小テスト、解説 講義小テスト	教科書の該当箇所を読む (9～15頁)
6	言語技能の扱い方 －統合的アプローチ	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む (16～18頁) 小テスト準備
7	授業活動 －初級授業の流れ	小テスト、解説 講義	教科書の該当箇所を読む (19～25頁)
8	授業活動 －中級授業の流れ	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む (26～38頁) 小テスト準備
9	教材・教具 教材教具の種類と特徴	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む (39～45頁)

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	教材・教具 シラバス・カリキュラムとの関係	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む(44～46頁) 小テスト準備
11	会話・スピーチ教育 正確さと流暢さについて	小テスト、解説 講義	教科書の該当箇所を読む(47～53頁)
12	会話・スピーチ教育 スピーチ・スキル	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む(54～60頁) 小テスト準備
13	読解教育 初級の教え方	小テスト、解説 講義	教科書の該当箇所を読む(77～85頁)
14	読解教育 中上級の教え方	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む(86～90頁)
15	語彙教育 目的と指導方法	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む(119～123頁)
16	作文教育 レベル別目的	講義	教科書の該当箇所を読む(99～106頁)
17	初級教科書「げんき」分析 シラバスと構成	講義、ディスカッション、質疑応答	「げんき」を読み分析
18	初級教科書「げんき」分析 文法説明と練習問題	講義、ディスカッション、質疑応答	「げんき」を読み分析
19	レッスンプランの立て方	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書の該当箇所を読む
20	レッスンプラン作成	講義、ディスカッション、質疑応答	レッスンプラン作成
21	模擬授業 観点：初級文型の導入方法	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
22	模擬授業 観点：初級文型の練習	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
23	模擬授業 観点：初級クラスのインターアクション	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
24	模擬授業 観点：初級クラスの教室言語の使い方	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
25	振り返り	講義、ディスカッション、質疑応答	模擬授業準備
26	模擬授業 観点：誤用に対する訂正の方法	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
27	模擬授業 観点：文字の教え方	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
28	模擬授業 観点：統合的なアプローチ	模擬授業分析・観察 記録	模擬授業準備
29	振り返り	模擬授業分析	模擬授業準備
30	まとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	期末レポート準備

テキスト	三牧陽子『日本語教授法を理解する本 実践編』(バベルプレス)
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・カレッジフレンド参加希望者は、この科目の履修が必須となる。 ・この科目を履修し修了することで、日本語教育演習の履修が可能となる。 ・カレッジフレンドに参加するため、授業がなくても木 1 時限と 2 時限のサービスラーニング枠に他の科目を履修することはできない。

科目名	GMN101: ドイツ語 I				担当教員	工藤 花野	
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	基礎ドイツ語、ヨーロッパ共通参照枠 A1						
授業の概要	初心者も取り組み易いように、ヨーロッパの言語教育ガイドラインによる初級レベル(A1)に準拠したテキストを用いて、時間をかけて進めます。ドイツ語の基礎的文法、ドイツ語圏で実際に使える表現や語句を中心に、問題を繰り返し解いて学んでいきます。CD等でドイツ語の発音や意味を確認した後(発音)、基礎的な文法を理解し(文法)、テキスト中の練習問題を一緒に解き(読む)、テーマに沿った聞き取り問題(聞く)、対話形式のペアワーク(話す)をこなし、バランスのとれた基礎力を鍛えます。各回の復習として、授業で理解した知識を元に、各自の課題に取り組みます(書く)。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>「書く・読む・聞く・話す」の総合的な練習により、ドイツ語の発音、基礎的文法力、基礎的表現力を身につける。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読み方と発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の活用の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・簡単な会話や文章を理解し、作文できる。 ・日常で用いる基本的な語彙を身につける。 						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>授業時の積極参加(10%)、毎回の課題提出(10%)、中間・期末試験(80%)</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>授業参加 [個人やペアでの発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する]</p> <p>課題提出 [授業毎の短い自習課題の提出により、授業内容や文法事項を確認する]</p> <p>中間・期末試験 [筆記・口頭試験により、文法・読み・書き・発音力を確認する]</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	導入、授業概要の説明 ドイツ語のアルファベットと発音・挨拶	演習(発音)	テキスト S.6-8 までの整理 次回提出用課題準備
2	[Lektion1] 人と知り合う 自己紹介・動詞の現在人称変化(1人称)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 9, 10 の整理 次回提出用課題準備
3	[Lektion1] 人と知り合う 自己紹介の会話・現在人称変化(2人称)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 11, 12 の整理 次回提出用課題準備
4	[Lektion1] 人と知り合う 自己紹介文と会話文・インタビュー	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 13, 14 の整理 次回提出用課題準備
5	[Lektion1] 人と知り合う メール文・現在人称変化(3人称)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 15, 16 の整理 次回提出用課題準備
6	[Lektion1] 人と知り合う 人称代名詞・人称変化・語順・挨拶	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 17, 18 の整理 次回提出用課題準備
7	[Lektion2] 自由時間 趣味・不規則動詞現在人称変化(1人称)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 19, 20 の整理 次回提出用課題準備
8	[Lektion2] 自由時間 趣味についてのインタビュー(2人称)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 21, 22 の整理 次回提出用課題準備
9	[Lektion2] 自由時間 インタビュー(3人称)・住所の書き方	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 23, 24 の整理 次回提出用課題準備
10	[Lektion2] 自由時間 数字の読み方・書き方と職業	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 25, 26 の整理 次回提出用課題準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	[Lektion2] 自由時間 読解（ドイツ人の趣味）・文法まとめ	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 27, 28 の整理 次回提出用課題準備
12	[Lektion3] 一日の行動 時刻の表現	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 29, 30 の整理 次回提出用課題準備
13	[Lektion3] 一日の行動 時刻の表現・分離動詞	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 31, 32 の整理 次回提出用課題準備
14	[Lektion3] 一日の行動 一日の行動と分離動詞	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 32, 33 の整理
15	Lektion1-3 の総括・質疑応答（20分） 筆記試験（70分）	質疑応答 試験	テキスト S. 8-33 の整理 次回提出用課題準備
16	Lektion1-3 の総括・試験解答 [Lektion3] 一日の行動・曜日と大学の予定	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S.33, 34 の整理 次回提出用課題準備
17	[Lektion3] 一日の行動 話法の助動詞・一日の計画	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 35, 36 の整理 次回提出用課題準備
18	[Lektion3] 一日の行動 読解（小学生の一日）・文法まとめ	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 37, 38 の整理 次回提出用課題準備
19	[Lektion4] 食事 名詞の性・定冠詞・不定冠詞	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 39, 40 の整理 次回提出用課題準備
20	[Lektion4] 食事 不定冠詞・否定冠詞・無冠詞・会話	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 41, 42 の整理 次回提出用課題準備
21	[Lektion4] 食事 読解（ドイツ人の食事）・メニュー表	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 43, 44 の整理 次回提出用課題準備
22	[Lektion4] 食事 食事の注文・冠詞の使い方・人称代名詞	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 45, 46 の整理 次回提出用課題準備
23	[Lektion4] 食事 レストランの会話の実践・文法まとめ	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 47, 48 の整理 次回提出用課題準備
24	[Lektion5] 住まい 住まいの種類・部屋の名称・作文	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 49, 50 の整理 次回提出用課題準備
25	[Lektion5] 住まい 住居の説明・所有冠詞・形容詞	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 52, 53 の整理 次回提出用課題準備
26	[Lektion5] 住まい 家具の名称・作文・台所用品の説明	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 51, 54 の整理 次回提出用課題準備
27	[Lektion5] 住まい 名詞の複数形・場所の前置詞の使い方	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 55, 56 の整理 次回提出用課題準備
28	[Lektion5] 住まい 移動の前置詞の使い方	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 57, 58 の整理
29	Lektion3-5 の総括・質疑応答（20分） 筆記試験（70分）	質疑応答 試験	テキスト S. 33-58 の整理 次回提出用課題準備
30	Lektion4-6 の総括・試験解答 [Lektion5] 読解（ドイツの大学生の住居）	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 59, 60 の整理

テキスト	藤原三枝子他『CD付き スタート！ーコミュニケーション活動で学ぶドイツ語ー』（三修社）
参考書	斉藤佑史著／荒木詳二『若草のドイツ語文法』（三修社）
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とするもの、日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則として不可とする。
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワークやグループワークが多いので毎回の出席が望ましい。

科目名	GMN102: ドイツ語 II				担当教員	工藤 花野	
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	基礎ドイツ語、ヨーロッパ共通参照枠 A1						
授業の概要	ドイツ語 I に引き続き、各課の最初に挙げられたテーマ別の新出単語の発音や意味を確認した後（発音）、基礎的な文法を理解し（文法）、テキスト中の練習問題を一緒に解き（読む）、テーマに沿った聞き取り問題（聞く）、インタビュー形式のペアワーク（話す）をこなし、バランスのとれた基礎力を鍛えながら、より複雑な表現方法を習得します。各回の復習として、授業で理解した知識を元に各自の課題をこなします（書く）。またプリントにより、教科書で扱わない文法事項の説明を補い、総合基礎文法の完成を目指します。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>ドイツ語 I で習得した語彙力・文法力を再確認しながら、さらに学習を進めてドイツ語の「書く・読む・聞く・話す」の総合的な練習により、ドイツ語の発音、基礎的文法力、基礎的表現力を身につける。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読み方と発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の活用の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・複雑な文章を理解し、作文することができる。 ・新出語彙を身につける。 						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>授業時の積極参加（10%）、毎回の課題提出（10%）、中間・期末試験（80%）</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>授業参加 [個人やペアでの発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する] 課題提出 [授業毎の短い自習課題の提出により、授業内容や文法事項を確認する] 中間・期末試験 [筆記・口頭試験により、文法・読み・書き・発音力を確認する]</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	ドイツ語 I を振り返る [Lektion1-3] 動詞人称変化・分離動詞・話法の助動詞他	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	プリント内ポイントの整理 次回提出用課題準備
2	ドイツ語 I を振り返る [Lektion4-5] 名詞と冠詞類・前置詞他	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	プリント内ポイントの整理 次回提出用課題準備
3	[Lektion6] どこで何を買い物ができるか 場所を表す前置詞・序数	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 61-62 の整理 次回提出用課題準備
4	[Lektion6] 何を着るか・店頭での会話 冠詞 <i>dies-</i> と指示代名詞の主格・目的格	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 63-64 の整理 次回提出用課題準備
5	[Lektion6] 友人を招く・食品を購入する 人称代名詞の目的格	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 65-66 の整理 次回提出用課題準備
6	[Lektion6] 友人と一緒に食事を作る・依頼 表現 単位の表現・ <i>du / ihr</i> に対する命令形	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 66-67 の整理 次回提出用課題準備
7	[Lektion6] 店頭の広告を理解する・営業時間	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 68-70 の整理 次回提出用課題準備
8	[Lektion7] 家族を紹介する① 所有冠詞と 3 人称人称代名詞の主格	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 71-72 の整理 次回提出用課題準備
9	[Lektion7] 家族を紹介する② 所有冠詞と 3 人称の人称代名詞の目的格	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 73-74 の整理 次回提出用課題準備
10	[Lektion7] 日付を表現する・誕生日会 数字と序数・前置詞（日付）	演習（発音、ペアワーク、作文ほか）	テキスト S. 75-76 の整理 次回提出用課題準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	[Lektion7] 誕生日プレゼントを贈る 所有冠詞/3人称の人称代名詞与格(3格)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 77-78 の整理 次回提出用課題準備
12	[Lektion7] 家族構成・依頼表現 Sie に対する命令形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 79-80 の整理
13	Lektion6-7 の総括・質疑応答(20分)、 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S. 61-80 の整理 次回提出用課題準備
14	Lektion6-7 の総括・試験解答 [Lektion8] 場所を表す前置詞の種類を確認	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	試験解答確認/テキスト S. 89 の整理/次回提出用課題準備
15	[Lektion8] 休暇先の種類と名称について 方向を表す: 場所の前置詞と目的格	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 81-82 の整理 次回提出用課題準備
16	[Lektion8] 休暇先とそこでの活動について 場所を表す: 場所の前置詞と与格	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 83-84, 89 の整理 次回提出用課題準備
17	[Lektion8] ホテルでの宿泊と利用案内 話法の助動詞 dürfen	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 84-85, 90 の整理 次回提出用課題準備
18	[Lektion8] 禁止表現と依頼表現・ベルリン 観光 話法の助動詞 dürfen / können / müssen	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 86-88 の整理 次回提出用課題準備
19	ベルリンについて	DVD 鑑賞	配布資料を読む 次回提出用課題準備
20	[Lektion9] ベルリン観光 動詞 3 基本形・haben 支配の過去分詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 91-93 の整理 次回提出用課題準備
21	[Lektion9] 過去の表現 haben 支配の過去分詞と現在完了	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 93 の整理 次回提出用課題準備
22	[Lektion9] 道案内 方向を示す前置詞 zu と与格の融合形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 94 の整理 次回提出用課題準備
23	[Lektion9] 電車での移動と過去の表現 sein 支配の過去分詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 95-96 の整理 次回提出用課題準備
24	[Lektion9] 過去の表現 sein 支配の過去分詞と現在完了	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 97-98 の整理 次回提出用課題準備
25	[Lektion9] 過去の表現 現在完了	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 98-99 の整理 次回提出用課題準備
26	[残りの文法事項] werden と未来形・受動形・再帰動詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	プリントの該当箇所の整理 次回提出用課題準備
27	[残りの文法事項] es の用法・副文・zu 不定詞句	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	プリントの該当箇所の整理 次回提出用課題準備
28	[残りの文法事項] 従属の接続詞・関係代名詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	プリントの該当箇所の整理
29	Lektion8-9 の総括・質疑応答(20分) 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S.81-100 及びプリント整理/ 次回提出用課題準備
30	[残りの文法事項] 接続詞 I 式・II 式	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	試験解答の確認 プリントの該当箇所の整理

テキスト	藤原三枝子他『CD付き スタート!ーコミュニケーション活動で学ぶドイツ語ー』(三修社)
参考書	斉藤佑史著/荒木詳二『若草のドイツ語文法』(三修社)
履修条件、 前提科目	「ドイツ語 I」を履修しているか、または同等のレベルであること。 ただし、この言語を母語とするもの、日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則として不可とする。
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワークやグループワークが多いので毎回の出席が望ましい。

科目名	FRN101: フランス語 I				担当教員	谷口 清彦	
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	フランス語入門						
授業の概要	フランス語入門者を対象とする。プリントと教科書を併用し、フランス語運用において基礎的な文法事項と会話表現を学ぶ。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>フランス語の基本要素（入門文法、発音と綴り字の関係、日常の簡単な表現）を習得し、初歩的なフランス語を正しく理解できる。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な日常表現を口頭・筆記の両面で運用できる。 ・フランス語らしく発音し、初歩的な文法を理解する。 						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>第一回授業内試験 45%、第二回授業内試験 45%、小テスト 10%</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：前回の授業で習った文法や語彙が把握できているか ・第一回授業内試験：筆記試験（授業で扱った文法や語彙等が理解できているか） ・第二回授業内試験：筆記試験（授業で扱った文法や語彙等が理解できているか） <p>* 全授業回数の1/3以上の欠席により受験資格を喪失する。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	プリント1：発音とつづり① 音節、半母音、アクセント記号	講義・練習問題	配布プリント復習（小テスト準備）
2	プリント1：発音とつづり② 注意すべきつづりと発音	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
3	プリント2：発音とつづり③ アンシェヌマン、リエゾン、エリゾイオン	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
4	プリント3：主語人称代名詞、人称代名詞強勢形、指示代名詞	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
5	プリント4：動詞 être と疑問文	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
6	プリント5：副詞のはたらき、否定文	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
7	プリント6：動詞 aller と venir、疑問副詞、前置詞 à と de	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
8	プリント7：形容詞の性数一致①	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
9	プリント7：形容詞の性数一致②	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
10	プリント8：指示形容詞と所有形容詞	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
11	プリント9：好き嫌いの表現① 動詞 aimer、定冠詞	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
12	プリント9：好き嫌いの表現② 定冠詞の縮約	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）
13	プリント10：不定冠詞と部分冠詞①、動詞 avoir	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習（小テスト準備）

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
14	プリント 10：不定冠詞と部分冠詞②	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習・第一回授業内試験準備
15	第一回授業内試験	試験対策・試験	総合的復習
16	フランス映画鑑賞	DVD 視聴	試験結果を踏まえての復習
17	会話練習 (教科書 unité1)	講義・練習問題・復習小テスト	テキスト pp.4-9.復習 (小テスト準備)
18	会話練習 (教科書 unité2)	講義・練習問題・復習小テスト	テキスト pp.10-15.復習 (小テスト準備)
19	会話練習 (教科書 unité3)	講義・練習問題・復習小テスト	テキスト pp.16-21.復習 (小テスト準備)
20	会話練習 (教科書 unité4)	講義・練習問題・復習小テスト	テキスト pp.22-27.復習 (小テスト準備)
21	会話練習 (教科書 unité5)	講義・練習問題・復習小テスト	テキスト pp.28-33.復習 (小テスト準備)
22	会話練習 (教科書 unité6) ①	講義・練習問題・復習小テスト	テキスト pp.34-39.復習 (小テスト準備)
23	会話練習 (教科書 unité6) ②	講義・練習問題・復習小テスト	テキスト pp.34-39.復習 (小テスト準備)
24	プリント 11：動詞を学ぶ er 動詞①	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習 (小テスト準備)
25	プリント 12：動詞を学ぶ er 動詞②	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習 (小テスト準備)
26	プリント 13：動詞を学ぶ oir 動詞	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習 (小テスト準備)
27	プリント 14：動詞を学ぶ ir 動詞	講義・練習問題・復習小テスト	配布プリント復習 (小テスト準備)
28	プリント 15：動詞を学ぶ re 動詞 まとめと復習	講義・練習問題・試験対策	配布プリント復習・第二回授業内試験準備
29	第二回授業内試験	試験対策・試験	第二回授業内試験準備
30	答案の返却と解説	講義	総合的復習

テキスト	藤田裕二『新訂版・えすかるご 1』(朝日出版社)
参考書	田島宏編『コレクションフランス語①入門』、『コレクションフランス語②初級』、『コレクションフランス語③文法』(白水社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とするもの、日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則として不可とする。

科目名	FRN102: フランス語Ⅱ				担当教員	谷口 清彦	
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	フランス語初級						
授業の概要	フランス語Ⅰの履修者およびフランス語既習者を対象とする。プリントと教科書を併用し、フランス語運用において基礎的な文法事項と会話表現をフランス語Ⅰに引きつづき学ぶ。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】 仏語検定 5 級に相当する初級フランス語を周到に理解し、より幅広い表現が可能になる。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】 ・初級レベルの語彙・文法・表現を多角的に習得する。 ・日常的な場面に応じた基礎的フランス語を運用できる。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】 第一回授業内試験 45%、第二回授業内試験 45%、小テスト 10%</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】 ・小テスト：前回の授業で習った文法や語彙が把握できているか ・第一回授業内試験：筆記試験（授業で扱った文法や語彙等が理解できているか） ・第二回授業内試験：筆記試験（授業で扱った文法や語彙等が理解できているか） *全授業回数の1/3以上の欠席により受験資格を喪失する。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	フランス語Ⅰの復習①	講義・練習問題	配付プリント復習（小テスト準備）
2	フランス語Ⅰの復習②	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
3	プリント1：代名詞	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
4	プリント2：代名動詞	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
5	プリント3：中性代名詞と関係代名詞	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
6	プリント4：疑問詞	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
7	プリント5：否定と命令	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
8	プリント6：半過去	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
9	プリント7：分詞	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
10	プリント8：複合過去（1）	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
11	プリント9：複合過去（2）	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習（小テスト準備）
12	会話練習（教科書 <i>unité7</i> ）	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.40-45. 復習（小テスト準備）

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
13	会話練習(教科書 unité8)	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.46-51. 復習(小テスト準備)
14	会話練習(教科書 unité9)	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.52-57. 復習・第一回授業内試験準備
15	第一回授業内試験	試験対策・試験	総合的復習
16	フランス映画鑑賞	DVD 視聴	試験結果を踏まえての復習
17	会話練習(教科書 unité10) ①	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.58-63. 復習(小テスト準備)
18	会話練習(教科書 unité10) ②	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.58-63. 復習(小テスト準備)
19	会話練習(教科書 unité11) ①	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.64-69. 復習(小テスト準備)
20	会話練習(教科書 unité11) ②	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.64-69. 復習(小テスト準備)
21	会話練習(教科書 unité12) ①	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.70-75. 復習(小テスト準備)
22	会話練習(教科書 unité12) ②	講義・練習問題・小テスト	テキスト pp.70-75. 復習(小テスト準備)
23	プリント 10: 大過去	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
24	プリント 11: 未来 前未来	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
25	プリント 12: 条件法 (1)	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
26	プリント 13: 条件法 (2)	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
27	プリント 14: 接続法	講義・練習問題・小テスト	配付プリント復習(小テスト準備)
28	プリント 15: 使役と比較と話法 まとめと復習	講義・練習問題・試験対策	配付プリント復習・第二回授業内試験準備
29	第二回授業内試験	試験対策・試験	第二回授業内試験準備
30	答案の返却と解説	講義	総合的復習

テキスト	藤田裕二『新訂版・えすかるご1』(朝日出版社)
参考書	田島宏編『コレクションフランス語①入門』、『コレクションフランス語②初級』、『コレクションフランス語③文法』(白水社)
履修条件、 前提科目	「フランス語 I」を履修しているか、または同等のレベルであること。 ただし、この言語を母語とするもの、日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則として不可とする。

科目名	SPN101: スペイン語 I				担当教員	山本 浩史	
開講期	春／秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペイン、西欧、ラテンアメリカ						
授業の概要	スペイン語は全世界で4億人以上の話者を持つ言語で、ヨーロッパのスペイン及びラテンアメリカの多くの国々でスペイン語が話されています。スペイン語の授業を通してスペイン語圏の文化習慣も学ぶことで視野を英語圏以外の世界にもひろげます。授業はスペイン語の文法・語彙だけでなく、自己紹介や簡単な会話ができることを目指します。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>発音の習得、挨拶表現の習得、単語の性数の区別、名詞、形容詞、冠詞の語順の習得、基礎動詞の習得、スペイン語の動詞の活用についての一般的な理解</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <p>この学習でスペイン語技能検定6級の試験が受けられる程度の学力を目指す。6級の試験内容は動詞の直説法現在までと、名詞、冠詞、形容詞、前置詞、接続詞、疑問詞の用法です。語彙量は500語程度を想定しています。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>小テスト (15%)、達成度テスト1 (30%)、達成度テスト2 (30%)、提出物 (15%) 授業参加 (10%)</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>小テスト：前回の授業の復習を行っているか 達成度テスト1：中間までの内容を把握しているか。 達成度テスト2：前期の内容全体を把握しているか。 提出物：課題で出された動詞の変化や文型を正しく書くことができるか。 授業参加：質問に真剣に取り組んで答えているか。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	スペイン語圏とは スペイン語の挨拶 アルファベットと発音	講義 発音練習	挨拶とアルファベットの復習、テキストを読む
2	アルファベットと発音 アクセントとスペルの関係 数字や季節の表現	講義 発音練習 復習 前回の復習	テキスト Lección 1
3	名詞の性と数	講義 前回の復習	テキスト Lección 1
4	定冠詞と不定冠詞	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 2
5	肯定文否定文疑問文	講義 前回の復習	テキスト Lección 3
6	規則動詞の活用	講義 前回の復習	テキスト Lección 3
7	規則動詞の用法	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 3
8	ser 動詞の活用と用法	講義 前回の復習	テキスト Lección 4
9	estar 動詞の活用と用法	講義 前回の復習	テキスト Lección 4
10	Ser, estar, hay の関係	講義 前回の復習	テキスト Lección 4
11	Ser, estar, hay の使い分け	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 4

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
12	現在形不規則活用	講義 前回の復習	テキスト Lección 5
13	現在形不規則活用とその用法	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 5
14	現在形活用まとめと復習	講義 前回の復習	テキスト Lección 1-5
15	今までのまとめ 達成度テスト 1	講義 テスト	テキスト Lección 1-5
16	現在形不規則活用その 2	講義 前回の復習	テキスト Lección 6
17	現在形不規則活用その 2 の用法 接続詞	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 6
18	現在形不規則活用その 3	講義 前回の復習	テキスト Lección 7
19	現在形不規則活用その 3 の用法 目的格人称代名詞	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 7
20	Gustar 型動詞 前置詞格 の紹介	講義 前回の復習	テキスト Lección 8
21	Gustar 型動詞 前置詞格 の用法	講義 前回の復習	テキスト Lección 8
22	Gustar 型動詞のまとめ	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 8
23	再帰動詞 活用形	講義 前回の復習	テキスト Lección 9
24	再帰動詞 活用形と用法	講義 前回の復習	テキスト Lección 9
25	再帰動詞まとめ 無人称文	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 9
26	命令形 活用形	講義 前回の復習	テキスト Lección 10
27	命令形 応用	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 3-10
28	スペイン語の動詞の考え方	講義 前回の復習	テキスト Lección 1-10
29	達成度テスト 2	講義 テスト	テキスト Lección 1-10
30	前期のまとめ	講義 復習、肯定文 否定文疑問文	テキスト Lección 1-10

テキスト	和佐敦子『Gramática elemental del español』(朝日出版社)
参考書	小林一弘、エレナ・ガジェゴ『スペイン語文法と実践』(朝日出版社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とするもの、日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則として不可とする。
その他 特記事項	継続的に復習をすることが望ましい。また、授業内で意見を求められたら、正解・不正解は問わないので真面目に考えて回答すること。考えていない答えは答えとみなさない ので注意すること。

科目名	SPN102: スペイン語Ⅱ				担当教員	山本 浩史	
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペインとラテンアメリカ						
授業の概要	スペイン語Ⅰの復習をしながら理解度を高めていきます。現在形のみならず過去形、未来形など、日常会話にかかせない文法事項もまとめて学習していきます。簡単な日記程度ならスペイン語で読み書きできることを目指します。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>過去時制の習得と使い分け、未来時制の習得と使い分け、再帰動詞や <i>gustar</i> 型動詞、目的格代名詞の使い方の習得、日常口頭表現での会話と平易な日記文の作成</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <p>この学習でスペイン語技能検定5級の試験が受けられる程度の学力が身につきます。5級の試験内容は、初級文法（全時制を含み、接続法を除く）までの平易な文章の読み書きができることです。語彙量は1,200語程度を想定しています。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>小テスト（15%）、達成度テスト1（30%）、達成度テスト2（30%）、提出物（15%）、授業参加（10%）</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：前回授業の復習などを行っているか ・達成度テスト1：中間までの内容を把握しているか ・達成度テスト2：後期の内容全体を把握しているか ・提出物：その時に課題となっている時制の変化を正しく用いることができるか ・授業参加：質問に真剣に取り組み、きちんと答えられるか、等 						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	スペイン語Ⅰの復習 基礎表現 名詞と形容詞の関係	講義 発音練習	テキスト Lección 1-4 を読む
2	スペイン語Ⅰの復習 動詞の規則・不規則活用	講義 発音練習 前回の復習	テキスト Lección 5-7 を読む
3	スペイン語Ⅰの復習 目的格代名詞や <i>gustar</i> 型動詞	講義 前回の復習	テキスト Lección 1-7 を読む
4	復習、再帰動詞、 <i>gustar</i> 型動詞などスペイン語独特の考え方	講義 前回の復習	テキスト Lección 1-7 を読む
5	線過去活用	講義 前回の復習	テキスト Lección 8 を読む
6	線過去用法	講義 前回の復習	テキスト Lección 8 を読む
7	線過去の用法	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 8 を読む
8	点過去規則活用	講義 前回の復習	テキスト Lección 9 を読む
9	点過去用法	講義 前回の復習	テキスト Lección 9 を読む
10	点過去不規則活用	講義 前回の復習	テキスト Lección 9 を読む
11	点過去用法その2	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 9 を読む

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
12	点過去と線過去の違い	講義 前回の復習	テキスト Lección 8-9 を読む
13	点過去と線過去の使い分け	講義 前回の復習	テキスト Lección 8-9 を読む
14	点過去と線過去のまとめ	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 8-9 を読む
15	ここまでのまとめ 達成度テスト1	講義 テスト	テキスト Lección 7-9 を読む
16	再帰動詞活用	講義 前回の復習	テキスト Lección 10 を読む
17	再帰動詞用法	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 10 を読む
18	未来形活用	講義 前回の復習	テキスト Lección 11 を読む
19	未来形用法	講義 前回の復習	テキスト Lección 11 を読む
20	過去未来形活用	講義 前回の復習	テキスト Lección 11 を読む
21	過去未来形用法	講義 前回の復習	テキスト Lección 11 を読む
22	未来形と過去未来形まとめ	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 11 を読む
23	分詞の用法	講義 前回の復習	テキスト Lección 12 を読む
24	比較級の使い方	講義 前回の復習	テキスト Lección 13 を読む
25	最上級の使い方	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 13 を読む
26	命令形	講義 前回の復習	テキスト Lección 14 を読む
27	命令形～そして接続法	講義 前回の復習 小テスト	テキスト Lección 14 を読む
28	今までの復習	講義 前回の復習	テキスト Lección 3-14 を読む
29	達成度テスト2	講義 テスト	テキスト Lección 3-14 を読む
30	スペイン語 II のまとめ	講義 前回の復習	テキスト Lección 3-14 を読む

テキスト	久住真由『¡Ándale!』(同学社)
参考書	小林一弘、エレナ・ガジェゴ『スペイン語文法と実践』(朝日出版社)
履修条件、 前提科目	「スペイン語 I」を履修しているか、または同等のレベルであること。 初学者、初級者向けであり、この言語を母語とするもの、日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則として不可とする。
その他 特記事項	継続的に復習をすること。また、語学学習の性格上、不正解はごく当たり前のことであるので積極的に発言することが望ましい。

科目名	CHN101: 中国語 I				担当教員	廣重 聖佐子	
開講期	春／秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	第二外国語、中国語						
授業の概要	今年度は教科書の前半部分を学習する。各課は単語と文法説明、本文解説、音読練習、会話練習、練習問題（ドリル）の順序で授業を進める。音読練習の後にドリルの4行会話を音読のテストとする。授業では音読と会話練習を中心とし、繰り返し練習することで学習の定着をはかる。また同時に中華圏の文化や習慣も学んでいく。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>中国語学習に必要な不可欠なピンイン、入門初級程度の基本的な文法事項を音読や練習問題を繰り返すことによって習得する。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読ができる。（ピンインが読める） ・基本的な単語や文法事項が理解でき、和訳や練習問題ができる。 ・練習問題等で簡単な和文中訳ができる。 						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の学習確認として授業中の提出物（20%）（本文和訳と文法事項の確認、練習問題） ・各課の音読テスト（10%）（各課音読練習終了後授業内に実施） ・文法事項の確認として2回の授業内筆記試験（70%） <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の提出物：本文和訳と文法事項が理解できているか。 ・2回の授業内筆記試験：本文の基本的な文法が理解でき和文中訳ができているか。 ・各課の音読テスト：ピンインが習得できている、筆記試験で本文をピンインからに中国語に書くことができるか。 						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	第1課 発音 (1) 中国語の音節 声調 あいさつ	発音練習 ドリル	テキスト pp.4～7
2	第2課 発音 (2) 短母音 複母音 あいさつ	発音練習 ドリル	テキスト pp.8～11 復習
3	第3課 発音 (3) 子音 (1) あいさつ	発音練習 ドリル	テキスト pp.12～15 復習
4	第4課 発音 (4) 子音 (2) あいさつ	発音練習 ドリル	テキスト pp.16～19 復習
5	第5課 姓の言い方、名前の言い方 人称代名詞 (1)	単語と文法説明 本文の解説	テキスト pp.20～21 単語と文法事項の確認
6	第5課 姓の言い方、名前の言い方 人称代名詞 (2)	音読練習と会話練習	テキスト pp.22～23 単語と文法事項の復習
7	第5課 姓・名前の言い方とたずね方 人称代名詞 (3)	音読テスト ドリル	テキスト pp.24～25 宿題プリント
8	第6課 動詞“是” 助詞“的”の構文 (1)	単語と文法説明 本文の解説	テキスト pp.26～27 単語と文法事項の確認
9	第6課 動詞“是” 助詞“的”の構文 (2)	音読練習と会話練習	テキスト pp.28～29 単語と文法事項の復習
10	第6課 動詞“是” 助詞“的”の構文 (3)	音読テスト ドリル	テキスト pp.30～31 宿題プリント
11	第7課 子本語順 S+V+O 連動文 (1)	単語と文法説明 本文の解説	テキスト pp.32～33 単語と文法事項の確認

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
12	第7課 子本語順 S+V+O 連動文 (2)	音読練習と会話練習	テキスト pp.34～35 単語と文法事項の復習
13	第7課 子本語順 S+V+O 連動文 (3)	音読テスト ドリル	テキスト pp.36～37 宿題プリント
14	前半の復習	復習	第5課から第7課までの復習
15	前半の復習と授業内試験①	授業内試験と解説	第5課から第7課までの復習
16	第8課 希望願望の助動詞“想” 動詞 “有” 指示代名詞 (1)	単語と文法説明 本文解説 音読練習	テキスト pp.38～40 確認と復習
17	第8課 希望願望の助動詞“想” 動詞 “有” 指示代名詞 (2)	会話練習 音読テスト ドリル	テキスト pp.41～43 宿題プリント
18	第9課 動詞“在” 方位詞 前置詞 “从”“往” 場所を表す指示代名詞 (1)	単語と文法説明 本文解説 音読練習	テキスト pp.44～46 確認と復習
19	第9課 動詞“在” 方位詞 前置詞 “从”“往” 場所を表す指示代名詞 (2)	会話練習 音読テスト ドリル	テキスト pp.47～49 単語と文法事項の確認
20	第10課 数の言い方 値段のたずね方・ お金の言い方 形容詞述語文 (1)	単語と文法説明 本文解説 音読練習	テキスト pp.50～52 単語と文法事項の復習
21	第10課 数の言い方 値段のたずね方・ お金の言い方 形容詞述語文 (2)	会話練習 音読テスト ドリル	テキスト pp.53～55 宿題プリント
22	第11課 年月日・曜日の言い方 年齢の たずね方・答え方 (1)	単語と文法説明 本文解説 音読練習	テキスト pp.56～58 確認と復習
23	第11課 年月日・曜日の言い方 年齢の たずね方・答え方 (2)	会話練習 音読テスト ドリル	テキスト pp.59～61 宿題プリント
24	第12課 量詞 動詞の重ね型 (1)	単語と文法説明 本文解説 音読練習	テキスト pp.62～64 単語と文法事項の復習
25	第12課 量詞 動詞の重ね型 (2)	会話練習 音読テスト ドリル	テキスト pp.65～67 宿題プリント
26	第13課 時刻の言い方・たずね方 変化を表す文末の“了” (1)	単語と文法説明 本文解説 音読練習	テキスト pp.68～70 確認と復習
27	第13課 時刻の言い方・たずね方 変化を表す文末の“了” (2)	会話練習 音読テスト ドリル	テキスト pp.71～73 宿題プリント
28	後半の復習	復習	第8課から第13課までの復習
29	後半の復習と授業内試験②	授業内試験と解説	第8課から第13課までの復習
30	総復習	総復習と解説	第8課から第13課までの復習

テキスト	陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語 トータル版』(朝日出版社)
参考書	郭春貴『中国語検定対策3級・4級 文法・単語編』(白帝社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とするもの、日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則として不可とする。
その他 特記事項	20分以上の遅刻は欠席とする。

科目名	CHN102: 中国語Ⅱ				担当教員	廣重 聖佐子	
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	第二外国語、中国語						
授業の概要	今年度は前年度使用した教科書の後半部分を学習する。各課は単語と文法解説後、自分で本文より文法事項をチェックし、和訳を試みることを学習の中心とする。その後音読練習、例文を用いた会話練習、和文中訳で学習の定着をはかる。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>中国語の初級課程を完了するとともに、学習した構文を自分で分析し、簡単な長文の和訳ができる。</p> <p>音読学習と初級課程の成果として、簡単な日常会話と自己紹介ができるようにする。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読ができる。 ・文法事項が理解でき、和訳と練習問題ができる。 ・例文等を用いて中国語で表現できる。 						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の学習内容の確認として、授業内での提出物（20%）（本文和訳と文法事項の確認、練習問題） ・音読学習の確認として、中国語での自己紹介（10%） ・文法事項の確認として2回の授業内筆記試験（70%） <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内提出物の評価：本文和訳と文法事項が理解できているか。 ・2回の授業内筆記試験：本文の基本的文法事項が理解できているか。 ・中国語で自己紹介ができる。 						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	12 課 アスペクト助詞“了”“过” 現在進行形 数量補語 (1)	単語・文法説明	テキスト pp. 76～80 単語と文法の確認
2	12 課 アスペクト助詞“了”“过” 現在進行形 数量補語 (2)	本文の解説と音読練習	テキスト pp. 76～80 単語と文法の復習
3	12 課 アスペクト助詞“了”“过” 現在進行形 数量補語 (3)	会話練習・練習問題	テキスト pp. 84～85 練習問題
4	13 課 方向補語 前置詞“向”“从” “到”“离” (1)	単語・文法説明	テキスト pp. 85～88 単語・文法の確認
5	13 課 方向補語 前置詞“向”“从” “到”“离” (2)	本文の解説と音読練習	テキスト pp. 84～88 単語と文法の復習
6	13 課 方向補語 前置詞“向”“从” “到”“离” (3)	会話練習・練習問題	テキスト pp. 89～91 練習問題
7	14 課 結果補語 助動詞“会”“能” “可以”“应该” (1)	単語・文法説明	テキスト pp. 92～96 単語・文法の確認
8	14 課 結果補語 助動詞“会”“能” “可以”“应该” (2)	本文の解説と音読練習	テキスト pp. 92～96 単語と文法の復習
9	14 課 結果補語 助動詞“会”“能” “可以”“应该” (3)	会話練習・練習問題	テキスト pp. 97～99 練習問題
10	15 課 可能補語 依頼の表現 選択疑問文 (1)	単語・文法説明	テキスト pp. 101～104 単語・文法の確認
11	15 課 可能補語 依頼の表現 選択疑問文 (2)	本文の解説と音読練習	テキスト pp. 100～104 単語と文法の復習

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
12	15 課 可能補語 依頼の表現 選択疑問文 (3)	会話練習・練習問題	テキスト pp. 105～107 練習問題
13	前半の復習と授業内筆記試験①	復習	第12課から15課の復習
14	16 課 比較の表現 程度補語 一+量詞+(名詞)也+否定表現 疑問詞+“一+都～”	単語・文法説明	テキスト pp. 109～112 単語・文法の確認
15	16 課 比較の表現 程度補語 一+量詞+(名詞)也+否定表現 疑問詞+“一+都～”	本文の解説と音読練習	テキスト pp. 108～112 単語と文法の復習
16	16 課 比較の表現 程度補語 一+量詞+(名詞)也+否定表現 疑問詞+“一+都～”	会話練習・練習問題	テキスト pp. 113～115 練習問題
17	17 課 謙語文 様態補語 感嘆表現 “是～的”構文 “是不是～”の疑問文1	単語・文法説明	テキスト pp. 117～120 単語・文法の確認
18	17 課 謙語文 様態補語 感嘆表現 “是～的”構文 “是不是～”の疑問文	本文の解説と音読練習	テキスト pp. 116～120 単語と文法の復習
19	17 課 謙語文 様態補語 感嘆表現 “是～的”構文 “是不是～”の疑問文	会話練習・練習問題	テキスト pp. 121～123 練習問題
20	18 課 受動構文 命令の表現・前置詞のまとめ 意志の表現 虽然～但是の構文	単語・文法説明	テキスト pp. 125～128 単語・文法の確認
21	18 課 受動構文 命令の表現・前置詞のまとめ 意志の表現 虽然～但是の構文	本文の解説と音読練習	テキスト pp. 124～128 単語と文法の復習
22	18 課 受動構文 命令の表現・前置詞のまとめ 意志の表現 虽然～但是の構文	会話練習・練習問題	テキスト pp. 129～131 練習問題
23	19 課 使役表現 “让” “叫” 処置構文 “把” “因为～所以～”の構文	単語・文法説明	テキスト pp. 133～136 単語・文法の確認
24	19 課 使役表現 “让” “叫” 処置構文 “把” “因为～所以～”の構文	本文の解説と音読練習	テキスト pp. 132～136 単語と文法の復習
25	19 課 使役表現 “让” “叫” 処置構文 “把” “因为～所以～”の構文	会話練習・練習問題	テキスト pp. 137～139 練習問題
26	20 課 離合詞 伝聞の表現 動詞、形容詞の重ね型	単語・文法説明	テキスト pp. 141～144 単語・文法の確認
27	20 課 離合詞 伝聞の表現 動詞、形容詞の重ね型	本文の解説と音読練習	テキスト pp. 140～144 単語と文法の復習
28	20 課 離合詞 伝聞の表現 動詞、形容詞の重ね型	会話練習・練習問題	テキスト pp. 145～147 練習問題
29	後半の復習と授業内筆記試験②	復習・自己紹介	第16課から19課の復習
30	総復習	総復習・自己紹介	第16課から19課の復習

テキスト	孫樹林・岡村宏章等著『中国語入門・初級テキスト 佳縁漢語』(朝日出版社)
参考書	郭春貴『中国語検定対策3級4級 文法・単語編』(白帝社)
履修条件、前提科目	「中国語I」を履修しているか、または同等のレベルであること。 ただし、この言語を母語とするもの、日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則として不可とする。
その他特記事項	20分以上遅刻の場合は欠席とみなす。 就職活動のため欠席する者は事前に申し出ること。

科目名	JPN250: 日本語表現法				担当教員	河北 祐子	
開講期	春／秋	開講時限	火金3限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	構成、事実・意見・感情の区別、書き言葉と話し言葉						
授業の概要	テキストに従って、基本的な論文の構造を学ぶとともに、論文にふさわしい表現を学ぶ。ペアワーク・グループワークを重視する。宿題・中間発表、最終論文までの書く作業と教員を中心とする他からのフィードバックを通じ、論文にふさわしい文章表現を身に付ける。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>自分の日本語による表現を客観的にふり返り、より分かりやすく自分の考えを表現できるよう改善し、大学生らしい論文表現が使えるようになる。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見、あるいは他人と自分の考え・意見を区別して表現する。 ・論文にふさわしい文章表現を学び、使えるようになる。 ・小論文を書くための論文構成を学び、小論文を完成させる。 						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>授業時の積極参加 20%</p> <p>提出物 15%</p> <p>中間発表 25%</p> <p>小論文 40%</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>授業時積極参加：ペア・グループワーク時にほかの学生に迷惑をかけず、自分の意見をきちんと相手にフィードバックすること。提出物と期限：毎回の宿題を期限までに提出すること。中間発表：定められた日程に従った発表を行い、要求されたポイントをきちんと押さえた発表をすること。小論文：授業で学んだ構成に従い、ふさわしい表現で論文を書いているかどうか。期日までに提出すること。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	クラスオリエンテーション	講義 グループワーク	テキストの構成を理解する。
2	〔基礎編〕 よく使われる文の形、語と表現	講義 ペアワーク	テキスト pp.1-8 を読む。 提出物の準備
3	引用、要約、句読点 実際の論文で確かめる。	講義 ペアワーク	テキスト pp.8-15 を読む。 提出物の準備
4	表記規則、まとめの練習	講義 ペアワーク	テキスト pp.16-22 を読む。 提出物の準備
5	〔論文編〕論文とは、論文の構成 実際の論文で確かめる。	講義 ペアワーク	テキスト pp.24-28 を読む。 提出物の準備
6	構成の作り方、本論のまとめ方	講義 ペアワーク	テキスト pp.29-42 を読む。 提出物の準備
7	書いてみよう①、3種類の文 (FOA) 書いてみよう②	講義 ペアワーク	テキスト pp.43-47 を読む。 提出物の準備
8	論文のモデル	講義 ペアワーク	テキスト pp.48-50 を読む。 提出物の準備
9	〔論文編Ⅱ序論〕序論の役割、背景説明： 事物の説明、先行研究の紹介等	講義 ペアワーク	テキスト pp.51-63 を読む。 提出物の準備
10	問題提起、方向付け 書いてみよう。	講義 ペアワーク	テキスト pp.64-74 を読む。 提出物の準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	全体の予告 〔本論編〕本論の役割	講義 ペアワーク	テキスト pp.75-83 を読む。 提出物の準備
12	論拠提示：データ提示、事柄データ	講義 ペアワーク	テキスト pp.84-87 を読む。 提出物の準備
13	数量データ、文章データ	講義 ペアワーク	テキスト pp.87-93 を読む。 提出物の準備
14	意見提示、データ解釈、考察	講義 ペアワーク	テキスト pp.93-99 を読む。 提出物の準備
15	結論提示、行動提示、部分の予告、部分のまとめ	講義 ペアワーク	テキスト pp.100-110 を読む。 提出物の準備
16	論の展開、 書いてみよう。	講義 ペアワーク	テキスト pp.111-117 を読む。 提出物の準備
17	〔論文編〕 結びの役割、全体のまとめ	講義 ペアワーク	テキスト pp.118-122 を読む。 序論、論拠 A を書く。
18	タスク 評価、展望提示	講義 ペアワーク	テキスト pp.123-132 を読む。 序論、論拠 A を書く。
19	中間発表①	プレゼンテーション 質疑応答	発表準備
20	中間発表②	プレゼンテーション 質疑応答	発表準備 論文後半を書き進める。
21	中間発表③	プレゼンテーション 質疑応答	発表準備 論文後半を書き進める。
22	中間発表④	プレゼンテーション 質疑応答	発表準備 論文後半を書き進める。
23	中間発表⑤	プレゼンテーション 質疑応答	発表準備 論文後半を書き進める。
24	中間発表振り返り① 〔資料編〕図表、資料に関する表現	講義、グループワーク 論文添削	テキスト pp.134-152 を読む。 提出物の準備
25	展開の技術：例、対比、推論、結論 中間発表振り返り②	講義、グループワーク 論文添削	テキスト pp.153-166 を読む。 提出物の準備
26	論文の付属要素：表題、要旨、キーワード、参考文献等 中間発表振り返り③	講義、グループワーク 論文添削	テキスト pp.167-175 を読む。 提出物の準備
27	中間発表振り返り④ 最終論文作成	グループワーク 個人面談指導	論文作成
28	中間発表振り返り⑤ 最終論文作成	グループワーク 個人面談指導	論文作成
29	最終論文作成	グループワーク 個人面談指導	論文作成
30	授業振り返り	講義 グループワーク	論文提出の準備をする。

テキスト	浜尾麻里、平尾得子、由井紀久子『大学生と留学生のための論文ワークショップ』（くろしお出版）
参考書	稲垣滋子『日本語の書き方ハンドブック』（くろしお出版） 二通信子ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（東京大学出版会）
その他 特記事項	日本語論文を書くための基礎授業であり、進路決定に役立てたい場合は 2 年次の春学期までに履修することをすすめる。

科目名	SEF200: キャリアプランニング				担当教員	岩崎 明子 (輪講)	
開講期	秋	開講時限	月 5 限	研究室	4213	オフィスワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	女性のキャリア、ライフコース						
授業の概要	本学ソフィア同窓会の支援と社会の様々な分野で「Women for others with others」として活躍する卒業生の方々による 8 回の講演とキャリアデザインに関する講義によって基礎知識を身に着け、自己分析やインタビューやディスカッションを通して、社会で働くイメージを培いながら、自分のライフ・プランニングを見据えたキャリア・プランを立てていく。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 Course goals】 キャリアデザインに関する知識とともに自己認識を深め、様々な業界の卒業生のうちにキャリア・モデルを見て、自らのライフ・キャリアデザインをより具体的に描けるようになることが目標である。</p> <p>【到達目標 Learning objectives】 自己の振り返りと自己分析によって夢や自分の強みや職業適性について知る。産業や職業の調査や社会人インタビューにより、社会人として働くイメージを具体化する。女性労働者の課題や可能性についても社会の現状を理解する。個別ワーク、発表やディスカッションにおいて相互の意見を傾聴し、意見をまとめて発言できるようにする。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 Categories】 毎回提出する講義へのコメントシート (2%×15 回) 30%、ワークシート (5%×6 回) 30%、キャリア・プランの提出 15%、授業ノートの提出 25%</p> <p>【評価基準 Criteria】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメント：単なる感想ではなく、講義から触発された課題を記しているか ・ワークシート：綿密な作業記録だけでなく、作業後の省察と考察が記されているか ・キャリア・プラン：自己分析や授業資料や体験をもとに熟考の上作成されているか ・授業の記録ノート：毎回の講義資料や講演を整理し、自己の考察を加えてよくまとめているか 						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	ガイダンス 授業のねらい、キャリア発達の考え方	講義、話し合い コメントシート	働くことについてのワークシートに答えてくる
2	社会の変化とキャリア、ライフキャリアの課題、社会で働くとは何かを考える	講義、話し合い コメントシート	自分の振り返りチャートを完成する
3	卒業生からのライフ・キャリア・セッション (1)	講義、話し合い コメントシート	自己分析サイトで適性を知る。講義の概要を記録。
4	自己分析と自己理解 (5 年、10 年後の自分を考える)	講義、話し合い コメントシート	ハローワークで自分の興味ある職業を調べてくる
5	卒業生からのライフ・キャリア・セッション (2)	講義、話し合い コメントシート	社会人に職業インタビューする。講演の概要を記録。
6	グループでの自分の興味ある職業と職業インタビューの結果を話し合う	講義、話し合い コメントシート	職業調査用紙とインタビュー用紙提出
7	卒業生からのライフ・キャリア・セッション (3)	講義、コメントシート	講演者の業種・職種を調べる。講演の概要を記録。
8	卒業生からのライフ・キャリア・セッション (4)	講義、コメントシート	講演者の業種・職種を調べる。講演の概要を記録。
9	産業・職業の知識。社会に出て求められること。社会人基礎力って何?	講義、話し合い コメントシート	自己の社会人基礎力の成長のさせ方を考える

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	卒業生からのライフ・キャリア・セッション (5)	講義、コメントシート	講演者の業種・職種を調べる。講演の概要を記録。
11	卒業生からのライフ・キャリア・セッション (6)	講義、コメントシート	講演者の業種・職種を調べる。講演の概要を記録。
12	卒業生からのライフ・キャリア・セッション (7)	講義、コメントシート	講演者の業種・職種を調べる。講演の概要を記録。
13	卒業生からのライフ・キャリア・セッション (8)	講義、コメントシート	講演者の業種・職種を調べる。講演の概要を記録。
14	キャリア・モデルを考える、グループディスカッション (起業家、経営者など)	話し合い、発表	キャリア・プランを書く。
15	キャリアプランニング 私にとっての生き方とは	話し合い、発表	キャリア・プラン提出 授業記録ノートの提出

テキスト	配布するプリント
参考書	齋藤 豊／内野 好郎『女子大生のためのキャリアデザイン』（日本教育訓練センター）
その他 特記事項	本講座は短期大学部同窓会であるソフィア会の寄付講座である。社会で活躍されている卒業生の方々がボランティアで講師を担当くださるもので、卒業生によるライフ・キャリア・セッション (1) ～ (8) のトピックとご担当者は、9月に LOYOLA で掲示予定である。

科目名	ENG250: 留学準備 (イギリス)				担当教員	岩崎 明子	
開講期	春	開講時限	月木5限	研究室	4213	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	イギリス文化と社会、日本文化と社会、留学の準備と英会話						
授業の概要	この授業では、本学が認定するイギリスのグロースターシャー大学での約4週間の海外短期語学講座プログラムに参加する学生が、同プログラムに関する予備知識や、渡航、現地生活、安全管理に関する留意事項を学び、各自が目的意識を持ち、規律正しい、安心できる留学生活を送ることができることを目指す。授業時間を適宜分け、授業の後半では実践的英語表現の習得を目的とするトレーニングを行う。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 <i>Course goals</i>】</p> <p>学生は留学先で想定される異文化体験への準備を行い、自分自身の学びと成長の軌跡を省察し、目的意識と自信をもって留学に向かうことが出来るようになる。自国の文化と留学先の異文化とを客観的に対比、理解出来るようになる。さらに、留学に必要な英語表現を学ぶことにより、留学先での英語運用とより発展的な英語学習に備える。安全に留学が完遂出来るよう、海外生活に関する知識、心得、及び危機管理の方策を学ぶ。</p> <p>【到達目標 <i>Learning objectives</i>】</p> <p>①イギリス及び日本についての基本的知識を持ち、それについて自らの視点で英語で発信できる。②留学のさまざまな場面に必要な英語表現の知識を持つ。③海外生活での基本的マナーおよび危険回避について理解する。</p>						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 <i>Categories</i>】</p> <p>グループ発表 40% (イギリスと日本の文化、歴史、伝統などに関するもの) 英語運用能力向上のためのアクティビティ 40% (英会話スキット、小テストを含む) レポート 6% 「留学の目的と安全管理」/Essay (英文) 14%。Essay “My Study Abroad”:</p> <p>【評価基準 <i>Criteria</i>】</p> <p>*評価基準は初回の授業で詳しく説明する。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	留学プログラムについて導入 グロースターシャー大学について	講義、質疑応答	大学について調べる http://www.glos.ac.uk/
2	留学の意義、プログラムの概要、Unit 1 & 2 入国審査での会話、税関での会話	グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
3	留学の目的設定、Unit 3 & 4 初めての挨拶、車の中で	講義、質疑応答、グループワーク	留学の目的について英文 150 words で書く
4	渡航のための準備とは、Unit 5 & 6 家族を紹介される、お土産を渡す	発表、ディスカッション、質疑応答	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
5	手続きガイダンス、Unit 7 & 8 家の中を案内される、部屋の使い方を教わる	講義、質疑応答、グループワーク	グループワーク 小レポート (英文) 提出
6	イギリスという国、気候、自然 Unit 9 & 10 家のルールを守る、門限について	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスのレポート提出、グループワークの準備
7	イギリスの歴史と王室、Unit 11 & 12 電話について、車について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
8	イギリスの移民と多文化、Unit 13 & 14 バスルームの使い方、洗濯について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
9	イギリスの文化遺産、有名な人々、Unit 15 & 16 掃除について、朝晩の挨拶	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
10	イギリスの政治の仕組みとメディア、Unit 17 & 18 何か頼む、家族の子供と遊ぶ	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
11	イギリスの現代社会、Unit 19 & 20 一緒にテレビを見る、家事の手伝い	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
12	イギリスの英語と世界の英語、Unit 21 & 22	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
13	中間のまとめ (1) テキスト 1~22 章復習：小テスト	小テスト、グループワーク	小テストとグループワークの準備
14	日本の歴史と文化、Unit 23 & 24 Yes と No ははっきりと、家族とうまく話せない	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
15	日本の社会と政治、Unit 25 & 26 自室に閉じこもりがち、家族について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
16	イギリスの人々の日常生活 Unit 27 & 28 趣味について、学校生活について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
17	イギリスの音楽、スポーツ、文学 Unit 29 & 30 日常の生活について、友達について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
18	日本の経済と文化、Unit 31 & 32 日本の位置と気候について、日本の教育について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
19	日本の祭りと文化、Unit 33 & 34 日本の住居について、日本の食べ物について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
20	日本の歴史について、Unit 35 & 36 日本の文化・芸能について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
21	日本の若者とポップカルチャー、Unit 37 & 38 食前・食後の挨拶、朝の食事	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
22	中間のまとめ (2) テキスト 23~38 章復習：小テスト	小テスト、講義、グループワーク	小テストとグループワークの準備
23	ガイダンス 安全管理のワークショップ	講義、質疑応答	ガイダンスの準備 小レポート（英文）提出
24	イギリス人の基本的な価値観、Unit 39 & 40 夜の食事、食卓での会話	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスのレポート提出、グループワークの準備
25	イギリス人の習慣（お茶、食、住居、ペット）Unit 41 & 42 料理、嫌いな物	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
26	Unit 43, 44, 45 お腹がいっぱい、コーヒーとデザート、食事のしたくを手伝う	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
27	Unit 46, 47, 48 後片付けを手伝う、冷蔵庫のもので自分の料理をする、日本料理	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
28	出発前ガイダンス（確定スケジュール・マニュアル配布、出発時帰着時の確認）	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスの準備
29	Unit 49, 50, 51 家族の人と外食、外出、学校への送迎について	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスのレポート提出、グループワークの準備
30	まとめ、Essay “My Study Abroad” 提出	講義、質疑応答、グループワーク	Essay 提出

テキスト	桑原功次著『ホームステイの直前英会話』（ナツメ社） Mandy Barrow “Project Britain -Your Guide to British Life, Culture and Customs” http://projectbritain.com/
参考書	「日本の情報（英文）」Information about Japan (link) http://www.mofa.go.jp/j_info/japan/general/index.html 『海外で困ったら、大使館・領事館のできること』（外務省）
履修条件、前提科目	今夏イギリスのグロースターシャー大学で行われる海外短期語学研修プログラムに参加することが履修の条件である。

科目名	ENG251: 留学準備 (オーストラリア)				担当教員	Thomas
開講期	秋	開講時限	月木5限	研究室	4211	オフィスワー P.28 参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先
キーワード	異文化理解、英語表現のトレーニング、海外生活に関する基本的知識、安全管理の知識					
授業の概要	この授業では、本学が認定するオーストラリアのボンド大学での約4週間の海外短期語学講座プログラムに参加する学生が、同プログラムに関する予備知識や、渡航、現地生活、安全管理に関する留意事項を学び、各自が目的意識を持ち、規律正しい、安心できる留学期間を送ることができることを目指す。授業時間を適宜分け、授業の後半では実践的英語表現の習得を目的とするトレーニングを行う。					
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 Course goals】 学生は留学先で想定される異文化体験への準備を行い、自分自身の学びと成長の軌跡を省察し、目的意識と自信をもって留学に向かうことが出来るようになる。自国の文化と留学先の異文化とを客観的に対比、理解出来るようになる。さらに、留学に必要な英語表現を学ぶことにより、留学先での英語運用とより発展的な英語学習に備える。安全に留学が完遂出来るよう、海外生活に関する知識、心得、及び危機管理の方策を学ぶ。</p> <p>【到達目標 Learning objectives】 ①オーストラリア及び日本についての基本的知識を持ち、それについて自らの視点で英語で発信できる。②留学のさまざまな場面に必要な英語表現の知識を持つ。③海外生活での基本的マナーおよび危険回避について理解する。</p>					
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 Categories】 グループ発表 40%：(日本とオーストラリアの文化、歴史、伝統などに関する発表。ホームステイ先の家族、学校で教員との相談、同級生との交流、買い物等の状況に適した英会話を作成し発表する。) 英語運用能力向上のためのアクティビティ 40%：(教科書を使った英会話練習、10回分程度の授業のまとめとしての小テスト、週に一回の Quiz) Essay (英文) 20%：(手続きと安全管理についてのガイダンスに基づいた日本語でのレポート2回、と My Study Abroad というテーマで 1500 words の essay を英語で書く。)</p> <p>【評価基準 Criteria】 評価基準は初回の授業で詳しく説明する。</p>					

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
1	留学プログラムについて導入 ボンド大学について	講義、質疑応答、グループワーク	ボンド大学について調べる https://bond.edu.au/
2	留学の意義、プログラムの概要、Unit 1 & 2 入国審査での会話、税関での会話	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
3	留学の目的設定、Unit 3 & 4 初めての挨拶、車の中で	発表、ディスカッション、質疑応答	留学の目的について 150 words 準備する
4	渡航のための準備とは、Unit 5 & 6 家族を紹介される、お土産を渡す	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
5	手続きガイダンス、Unit 7 & 8 家の中を案内される、部屋の使い方を教わる	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
6	オーストラリア共和国について、Unit 9 & 10 家のルールを守る、門限について	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスのレポート提出、グループワークの準備
7	オーストラリアの原住民について、Unit 11 & 12 電話について、車について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
8	ヨーロッパからの移民について、Unit 13 & 14 バスルームの使い方、洗濯について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
9	オーストラリア人の挨拶と文化、Unit 15 & 16 掃除について、朝晩の挨拶	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学修内容	運営方法、教育手法	準備学修・復習
10	オーストラリアの政治・経済について、Unit 17 & 18 何か頼む、家族の子供遊ぶ	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
11	オーストラリアの現代社会、Unit 19 & 20 一緒にテレビを見る、家事の手伝い	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
12	世界の英語、オーストラリアの英語、Unit 21 & 22	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
13	中間まとめ (1) テキスト 1～22 章復習：小テスト	小テスト、グループワーク	小テストとグループワークの準備
14	日本の歴史と文化、Unit 23 & 24 Yes と No ははっきりと、家族とうまく話せない	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
15	日本の社会と政治、Unit 25 & 26 自室に閉じこもりがち、家族について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
16	オーストラリアの気候風土と自然、Unit 27 & 28 趣味について、学校生活について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
17	オーストラリアの人々の生活、Unit 29 & 30 日常の生活について、友達について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
18	日本の経済と文化、Unit 31 & 32 日本の位置と気候について、日本の教育について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
19	日本の祭りと文化、Unit 33 & 34 日本の住居について、日本の食べ物について	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
20	Unit 35 & 36 日本の歴史について、日本の文化・芸能について	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
21	日本の若者とポップカルチャー、Unit 37 & 38 食前・食後の挨拶、朝の食事	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
22	中間まとめ (2) テキスト 23～38 章復習：小テスト	小テスト、講義、グループワーク	小テストとグループワークの準備
23	ガイダンス 安全管理のワークショップ	講義、質疑応答	ガイダンスの準備
24	オーストラリア人の基本的な価値観、Unit 39 & 40 夜の食事、食卓での会話	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスのレポート提出、グループワークの準備
25	オーストラリア人の社会的な習慣 Unit 41 & 42 料理を始める、嫌いなもの	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
26	Unit 43, 44, 45 お腹がいっぱい、コーヒーとデザート、食事のしたくを手伝う	講義、質疑応答、グループワーク	グループワークとディスカッションの準備
27	Unit 46, 47, 48 後片付けを手伝う、冷蔵庫のもので自分の料理をする、日本料理	講義、質疑応答、グループワーク	Quiz、グループワーク、ディスカッションの準備
28	出発前ガイダンス（確定スケジュール・マニュアル配布、出発時帰着時の確認）	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスの準備
29	Unit 49, 50, 51 家族の人と外食、外出、学校への送迎について	講義、質疑応答、グループワーク	ガイダンスのレポート提出、グループワークの準備
30	まとめ、Essay “My Study Abroad” 提出	講義、質疑応答、グループワーク	Essay の準備

テキスト	桑原功次『ホームステイの直前英会話』（ナツメ社）
参考書	Hector Garcia. <i>A Geek in Japan</i> (Tuttle Publishing) 『海外で困ったら：大使館・領事館のできることに』（外務省）
履修条件、前提科目	今年度オーストラリアのボンド大学で行われる海外短期語学研修プログラムに参加することが条件である。